

令和 6 年度 (2024 年度)

第 2 回熊本県立美術館協議会資料

令和 7 年度 (2025 年度)

熊本県立美術館本館 事業計画 (案)

ア	展覧会活動について	P 2
イ	教育普及活動について	P 9
ウ	永青文庫振興基金事業について	P 10
エ	改修工事について	P 11

ア 展覧会活動について

I 常設展

1 第 I 期細川・美術館コレクション展

第1室 細川家の大名道具

第2室 今西コレクションの浮世絵

第3室 熊本の近代美術と西洋絵画

会 期 令和7年4月29日（火・祝）～6月22日（日）

会 場 本館第2展示室

主 催 熊本県立美術館、熊本日日新聞社、RKK 熊本放送

特別協力 公益財団法人永青文庫

協 力 肥後銀行

内 容 細川・美術館コレクション展では、公益財団法人永青文庫が所蔵する細川コレクションと、古今東西の様々な分野の美術品等を収蔵する熊本県立美術館のコレクションを併せて展示し、年間を通じて熊本の歴史文化や美術を総合的に紹介する。

第1室では、永青文庫所蔵の細川コレクションの中から、熊本藩主細川家伝来の大名道具を展示。藩主が着用した甲冑や、華やかな蒔絵の鞍・鐙、藩主夫人の婚礼調度や細川家の邸宅を彩った屏風絵等を展示し、江戸時代に花開いた華麗な大名文化の一端を紹介する。

第2室では、NHK 熊本放送局の職員であった今西菊松氏が集めた「今西コレクション」の中から肉筆浮世絵を中心に紹介する。

第3室では、熊本ゆかりの近代美術を紹介するとともに、当館所蔵の西洋絵画を併せて紹介する。



《梅樹文蒔絵鞍》永青文庫蔵 当館寄託

2 第Ⅱ期細川・美術館コレクション展

第1室 東洋工芸の精華

第2・3室 新収蔵品展

会 期 令和7年7月10日（木）～9月15日（月・祝）

会 場 本館第2展示室

主 催 熊本県立美術館、熊本日日新聞社、RKK 熊本放送

特別協力 公益財団法人永青文庫

協 力 肥後銀行

内 容 永青文庫には世界的にも優れたレベルの東洋美術コレクションがある。それらは主に細川家16代当主・細川護立が蒐集したものであり、地域や分野は多岐にわたる。護立は若いころから東洋美術に関心を持ち、現地への旅行はもちろん、公的な用務でヨーロッパを訪れた際にも美術品を蒐集し、多様な専門家とのネットワークを築いていた。当館では令和5年度（2023年度）に「金石之交 微笑みの みほとけと細川コレクション」と題して、主に仏教美術分野から、細川護立を取り巻く東洋美術のネットワークに触れたが、本展では中国陶磁を中心とした工芸品から、護立の審美眼の高さと交友関係を紹介する。

これにあわせ、当館コレクションからは、東洋美術から江上波夫氏旧蔵の北方民族が使用した帯金具や馬具のなど装飾品、それに熊本県内で出土した中国陶磁器を展示する。また、令和6年度に当館が新たに収集した作品を公開する。



牛島憲之《水門》

3 第Ⅲ期細川・美術館コレクション展

第1室 武蔵が熊本にやってきた!

第2・3室 にている美術

会 期 令和8年2月～3月（調整中）

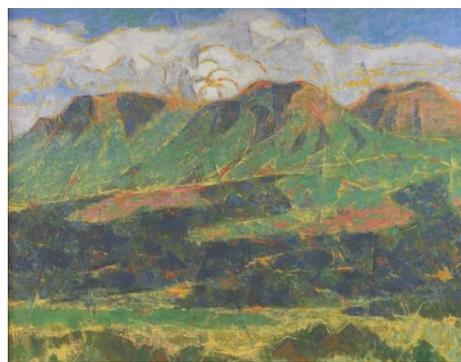
会 場 本館第2展示室

主 催 熊本県立美術館、熊本日日新聞社、RKK 熊本放送

特別協力 公益財団法人永青文庫、一般財団法人松井文庫、永青文庫研究センター

協 力 肥後銀行

内 容 第1室では、剣豪として名高い宮本武蔵を特集する。寛永17年(1640年)に熊本を訪れた武蔵は、終の棲家をここに見出した。永青文庫所蔵の武蔵関連作品をはじめ、松井文庫に伝来した作品を一堂に展示し、剣術修行や指南のみならず、書画にもいそしんだ武蔵の晩年について紹介する。併せて、令和4年(2022年)に熊本大学永青文庫研究センターによって発見された武蔵の新史料も展示する。



田代順七《新緑の阿蘇》

第2室、第3室では「にている美術」と題して、当館の幅広い所蔵作品を紹介する。美術作品には、長い歴史の中で繰り返し描かれてきた画題や、共通する表現方法が見られる。本小企画では、鑑賞の手立てとして「類似点」に着目する。来館者に作品同士を比較して鑑賞して頂くことで、それぞれ作品への深い理解に繋げる、教育普及的な視点を持った小企画である。

4 その他常設展

[浜田知明室]

会 期 2階コレクション展と同時に展示替え

会 場 本館2階浜田知明室

主 催 熊本県立美術館

内 容 熊本を代表する版画家・彫刻家である浜田知明の版画及び彫刻作品約10点を、各期で入替えながら展示している。令和7年度も各期でテーマを設けつつ浜田の画業を紹介するが、第Ⅱ期では終戦から80年の節目として、代表作品群〈初年兵哀歌〉を前期・後期に分けて一挙公開する。

[装飾古墳室]

装飾古墳は全国で約700基確認されているが（平成30年現在）、九州の北・中部に集中的にみられ、県内には約200基が存在する。当館の装飾古墳室では、熊本県の代表的な装飾古墳を実物とレプリカで再現し、考古学ファンや児童生徒、一般来館者に楽しんでいただいている。

Ⅱ 特別展

1 生誕 100 年 山下清展一百年目の大回想

会 期 令和7年7月11日（金）～8月31日（日）

会 場 本館第1展示室

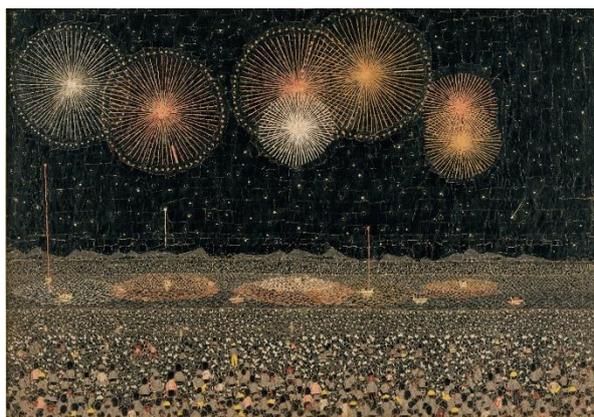
主 催 熊本県立美術館、TKU テレビ熊本

協 力 山下清作品管理事務所

企画協力 ステップ・イースト

内 容 「放浪の画家」として人々に親しまれた山下清（1922－1971）の画業を紹介する展覧会。東京・浅草に生まれた山下は12歳で入園した八幡学園でちぎり絵と出会い、これを発展させた「貼絵」の制作に没頭する中でその才能を大きく開花させた。昭和15年（1940年）から日本各地をめぐる放浪の旅にかけた山下は、旅先で目にした風景を貼絵で制作。緻密で色鮮やかな表現で多くの人々の心をとらえた。以降、油彩や水彩画、ペン画や陶磁器の絵付けなど、創作活動の幅はますます広がりを見せるが、「今年の花火見物はどこに行こうかな」という言葉を最後に、49歳でその生涯を閉じた。

本展では代表作《長岡の花火》をはじめとする貼絵を中心に、子供時代の鉛筆画や油彩、ペン画、陶磁器などの作品約190点と関連資料を展示。テレビや映画で紹介されてきたイメージとは異なる、芸術家・山下清の真実の姿をご覧ください。



《長岡の花火》1950（昭和25）年 / 貼絵

©Kiyoshi Yamashita/STEPeast 2025

関連行事 特別講演会（期日未定）

講師：山下浩氏（山下清管理事務所代表）

子ども向けワークショップ

・貼絵アート制作体験（仮）

2 松井文庫創立40周年記念展 文武に生きた筆頭家老・松井家ただいま参上!

武家の嗜み、そして忠義

会 期 令和7年9月30日(火)～11月24日(月)

会 場 本館第2展示室

主 催 熊本県立美術館

共 催 八代市立博物館未来の森ミュージアム

特別協力 一般財団法人松井文庫

内 容 松井家は、江戸時代を通して大名細川家の筆頭家老をつとめ、肥後熊本藩の支城である八代城を預かった家である。その歴史は室町時代末期まで遡ることができ、徳川將軍家からも知行地(山城国内)を与えられた稀有な家柄でもある。

この松井家には、武器・武具、書画、能面・能道具、古文書などの文化財が伝来しており、その総点数はおよそ3,500件。これらの文化財は、主君である細川家に匹敵するほど良質なもので、現在は昭和59年(1984年)に設立された一般財団法人松井文庫の所蔵となっている。本展覧会では、忠義の家臣・松井家の歴史と華麗なる武家文化を紹介する。



《緋黒羅紗段替陣羽織》松井文庫蔵

関連行事 子ども向けワークショップ

・貝合わせ制作体験(仮) 10月5日(日)予定

・古文書ワークショップ(仮) 10月25日(土)予定

特別講演会① 9月30日(火)予定

講師:松井葵之氏(八代市立博物館未来の森ミュージアム館長)

宮原江梨氏(同館学芸員)

特別講演会② 10月18日(土)

講師:林千寿氏(八代市立博物館未来の森ミュージアム学芸員)

3 創刊50周年記念 花とゆめ展 in 熊本

会 期 令和7年12月6日(土)～令和8年2月8日(日) ※R7.2/14以降情報解禁
会 場 本館第2展示室 (取扱注意)
主 催 熊本県立美術館、熊本日日新聞社、RKK熊本放送
内 容 令和6年(2024年)5月に創刊50周年を迎えた少女まんが雑誌『花とゆめ』。本展覧会は50周年を記念する「パーティー」をキーワードに、幅広い世代の方々に『花とゆめ』の作品が切り開いてきた少女まんがの世界、読者に届けてきたときめきと感動の数々を、約200点の原画やラフ資料などの関連展示でお楽しみいただく展覧会である。



(c) 美内すずえ／白泉社



(c) 高屋奈月／白泉社



(c) 草凧みずほ／白泉社

Ⅲ アウトリーチ事業（巡回展・ミュージアムバス）

1 スクールミュージアム

県内学校箇所校程度をめぐる巡回展 10月～12月実施予定
・浜田知明、マルク・シャガールの版画作品を展示予定。（6箇所程度）

2 ミュージアムバス

県立美術館から遠隔地にあり、県立美術館へ来る機会が少ない県内の小中学校校程度を、美術館へ招待するシャトルバス事業。（大型バス4台程度）
※開催ブロック（教育事務所管内で振り分ける）を、年ごとに変えながら実施予定。

Ⅳ その他の活動

1 特別開館日 ～手話通訳付きギャラリートーク～

通常は休館日である月曜日を臨時開館し、ゆっくりと展覧会をご観覧いただくための特別開館日を設ける。また、手話通訳付きのギャラリートークを開催。

2 インターネット美術館の推進

（1）「おうちで美術館」等の充実

- ・当館ホームページやX（旧Twitter）、YouTube を利用し、自宅でも美術館や制作を楽しむんでもらうための「おうちで美術館」等のコンテンツのさらなる充実を図る。

（2）収蔵品データベースの運用

- ・令和3年度（2021年度）末に整備を完了した新データベースによる収蔵品管理システムについて、継続的に収蔵品データの更新を行っていく。

（3）ポケット学芸員の活用

- ・令和2年度（2020年度）に導入した「ポケット学芸員」を活用して、収蔵品の画像・作品解説を来館者サービスの向上や来館者増へつなげる。

3 地域や他施設等との共働事業

当館が熊本城内にあるという立地を活かし、またインバウンド需要の回復による外国人観光客の増加も見込まれることから、地域の行事や熊本市の活動に合わせ、近隣文化観光施設と連携したイベント等を実施し、熊本城周辺一帯の魅力を高めることにより、「地域と協同し魅力あるまちづくりを推進する美術館」を目指す。

イ 教育普及活動について

① 子ども向けワークショップ

(1) 子ども美術館

制作・体験ワークショップ、小中学生向け

(2) かぞくでアート

鑑賞ワークショップ、家族向け

② おしゃべり鑑賞タイム (①10:30~12:00 ②13:30~15:00)

期 日	場 所	内 容
美術館コレクション会期中の第2日曜日、各ワークショップ開催日	各展覧会場	「おしゃべりしながら鑑賞できる」時間帯とするもの。ご家族やお友達とお話をしながら鑑賞を楽しめる。

③ ミュージアムセミナー (時間 14:00~15:00)

期 日	場 所	内 容
未定	文化交流室	当館学芸員によるセミナー。展覧会担当学芸員が鑑賞入門的な講座を開催する。

④ おわったアートのポスターさしあげます (10:00~16:00)

期 日	場 所	内 容
未定	文化交流室	過去に全国で開催された展覧会ポスターを無料配布。

⑤ 学校団体の対応

県内外の学校団体の希望に合わせて、開催中の展覧会に関するスライドトークやギャラリートーク、アートカードを使用したワークショップ等を行っている。

⑥ 鑑賞教材「熊本県立美術館アートカード」の活用(予定)

(1) 鑑賞教材「熊本県立美術館アートカード」を活用したイベント・研修・出前講座

鑑賞ワークショップ「かぞくでアート☆」、教員・医療福祉関係者向け研修等

(2) 学校での活用

アートカード・セットの貸し出し、関連ワークシートの提供、使い方動画掲載等

⑦ その他

- ・特別講演会、ギャラリートーク
- ・ミュージアムグッズプレゼントキャンペーン(缶バッジ、ペーパーバッグ、シールなど)
- ・鑑賞ワークシートの提供
- ・チラシでSDGs「エコ封筒を作ろう！」(ワークショップ、学校等でのボランティア活動として)

ウ 永青文庫振興基金事業について

I 修復事業について

- ・令和6年度～7年度（2024年度～2025年度）にかけて、横山大観《雲去来》の修復を実施している。
- ・これまで、調査事業の進展によって優れた美術品が確認されてきたが、修復を実施しなければ展示困難な作品もさらに発見されている。これらの中から、特に歴史的美術的価値の高い美術品を選んで、今後順次修復を実施する。
- ・修復を完了した作品の中から厳選して指定文化財を目指す。



横山大観《雲去来》

エ 改修工事について

当館は、令和6年（2024年）3月で築49年目を迎え、施設・設備は老朽化が進んでいる状況である。そのため、美術品の適正な保管環境と来館者の安全確保及び施設の保全・長寿命化を目的とし、令和7年度は別棟LED展示ケース・空調等改修工事を行う予定。

	工事内容（予定）
令和7年度	別棟LED展示ケース・空調等改修工事